

## 合併協議会での意見交換における意見のまとめ

平成 15 年 12 月 1 日

合併協議会事務局

### 1 合併協議会開催日及び意見交換協議題

平成 15 年 9 月 23 日 第 9 回合併協議会	1 市町村政の現状及び新市のまちづくりについて 2 合併の基本 4 項目について  (2 回とも同じ)
平成 15 年 10 月 25 日 第 10 回合併協議会	

### 2 主な意見

#### (1) 市町村政の現状及び新市のまちづくりについて

- ・ 中心部と周辺部といったようなことが一番心配だ。(第 9 回)
- ・ 住民の声が届きにくくなるだろうという不安を一時も早く取り除くことは大事なことで。地域住民の声を吸い上げる体制をきちっと整えて、新市がスタートすると同時に機能するような体制を考えて、そのことを合併協議会だより等で住民に示していったら安心するのではないだろうか。(第 9 回)
- ・ 7 市町村の総合計画、振興計画を尊重していくべきだ。(第 9 回)
- ・ 基本理念をきちっと提起する必要がある。建設計画の前に基本理念がなければだめだ。(第 9 回)
- ・ 早く南庄内の新しい市の基本理念を打ち出して、住民に知らせることが重要だ。(第 9 回)
- ・ 中学校の地域を意図した地域づくりを進めるのがいい。(第 9 回)
- ・ 福祉の後退はまかりならない。(第 10 回)
- ・ 行政の守備範囲を明確にすべきであるし、利用者負担の原則はきちっと貫くべきだ。(第 10 回)
- ・ 地域で人口がこんなに減ることは誰も考えていなかった。一番は人だ。地域コミュニティがきちっと育っていかなければならない。手をつないでいかなければならない。(第 10 回)
- ・ 地域間競争に勝つための地域の強みというものは東京にないものをたくさん持つことで。各市町村ともすばらしい素材、自然、文化といったものをたくさん持っている。それらを新市に対して活かしていくためには、住民の方々の意見を十分に吸い上げる

ことが重要だ。(第10回)

- ・ 合併の必要性は十分わかっているし、合併しても当分の間は各町の決められたことも守っていくし、認め合うということだから、淡々と粛々と合併を進めるべきだ。(第10回)
- ・ 地域住民が不安に思っているのは、人口は減り残っているのは年寄りということだ。コミュニティのことも十分考慮していかなければならない。(第10回)
- ・ 地域コミュニティを上手に利用していく方法も考えていかななくてはいけない。合併して今より活気がなくなることのないよう、中心部だけの活性化というのはなくさなければならぬ。(第10回)
- ・ 将来構想とか計画など各市町村が出しているが、いっぱい出しても全部できるのかと不安だ。(第10回)

## (2) 合併の基本4項目について

### ア 新市の事務所関係

- ・ 町村の役場が支所になろうとも、総合行政といった何でも相談でき、事務執行できる体制であるべきだ。(第9回)
- ・ 何でも本所で決めるということではなく、即応性、迅速性といったことから、可能な限り権限を支所に与えれば住民にとってもいいことだ。(第9回)
- ・ 旧市町村単位の振興費として、裁量でいろんなことが検討できるよう、権限だけでなく、一定の財源もあつたらいい。(第9回)
- ・ サテライト方式の具体的な議論を進めるべきだ。(第9回)
- ・ 今の役場を支庁として権限と予算を与えて、そこに住む住民の不安を解消していくのが当面取るべき道だ。(第10回)
- ・ 範囲が広くなることで一元集中となると難しい面があるので、支庁みたいな面を残しながら、住民が気軽に立ち寄れるようにして住民サービスの機能を残すべきだ。(第10回)
- ・ 各地域の住民の声を聞いて均等な発展を目的とするのであれば、支庁制のような行政組織体制を構築してもらいたい。(第10回)

### イ 新市の名称関係

- ・ 全国に公募する、あるいは庄内南部の中で公募するとかいろいろ手法はあるが、名称は公募してほしい。(第9回)
- ・ 学校も病院もショッピングも鶴岡という生活圏の中にある。鶴岡という名称がいい。(第9回)

- ・ 名称は公募し、選考委員会で絞込み、合併協議会で最終決定したらいい。(第9回)
- ・ 名称は公募がいい。(第10回)
- ・ 名称は鶴岡市がいい。公募を否定はしないが、中身については軽々しく結論は出せない。(第10回)
- ・ 住民が直接参加する公募も一つの方法だ。(第10回)
- ・ 決め方はどうあれ、住民が参加できる方策を採ることができたら、合併への関心度がプラスになる。(第10回)
- ・ 公募をしてもいいと思うし、その上で鶴岡市なら結構ではないか。(第10回)
- ・ 名称はどういう方法によるかということを決めるべきだ。(第10回)
- ・ 新市の名称は公募がいい。新設合併だから新しい名前のほうがみんなが納得する。(第10回)。
- ・ 名称を決める公募には参加したいという気持ちで考えている人もいる。(第10回)
- ・ 鶴岡市でいい。支所などで旧町村の名前はできるだけ残すべきだ。鶴岡市というのは有名になってきたので、改める必要はない。(第10回)
- ・ 住民も合併に参画するという意味も含めて、住民が参加して決める方法がいい。(第10回)
- ・ 住民の一番関心があるのは新市の名称だ。合併に参加してもらうには名称を利用することも大きい。(第10回)
- ・ 住民が参加するということで、公募制がいい。(第10回)
- ・ 名称は愛着ということもある。慎重に対応しなければならない。(第10回)

### (3) 議会議員の定数及び任期関係

- ・ 新設という前提になれば、議員定数は法定に基づく34人を上限にしてやるべきだ。(第9回)
- ・ 地域の住民が一番興味を持っているのは、議員定数等の問題だ。議員にはそのことの理解をお願いしたい。(第10回)
- ・ 議員数の多寡が地域の要望の反映の度合いに直結するものではないし、そのような新市の運営であってはならない。費用では計れないという意見は住民感情を無視した議論になる。在任特例については賛成できない。(第10回)
- ・ 財政の逼迫のために合併をしなければならないのだから、議員定数は、こういうことを十分に考えて決定すべきだ。(第10回)
- ・ 財政事情が合併の一つの大きな要因だ。それを考慮して各市町村議会で真摯に住民の声を反映した決定をしてもらいたい。(第10回)
- ・ 大局的な見方で、全体を考えた結果を出すべきだ。(第10回)
- ・ 在任特例では何のために合併するのかという目的に合わない。原則か定数特例かを考えるために大いに議論をして決めていくべきだ。(第10回)

- ・ 議員だけ任期が延び、ほかは新たにというのは言いにくいものがある。(第10回)
- ・ 特例を活かしても4年間だけということなら最初から原則で行ったほうが住民も合併に納得する。(第10回)

#### (4) 市町村間の相違点の調整関係

- ・ 住民にとっては、生活は合併したら一体どのようになるんだろうといった不安が一番の問題だ。時間をかけて徐々に変革していくことがいい。(第10回)
- ・ すべて合併前に調整することは不可能だが、住民の関心の強いものはある程度調整をしておくべきだ。合併した後にいろんな事情でサービスは低いほうに、負担は高いほうにということになっては、住民を裏切る結果になってしまう。(第10回)